

# 令和元年度職員研修会 「人間関係づくりに生かすグループエンカウンター」

教 務 部  
健康教育部

- 1 目 的 年々生徒の相談活動が増加傾向にあること、他者とのトラブルや心に抱える問題の処理が自分の力では難しい生徒が急増している。そのため、他者との信頼関係を築く力と円滑なコミュニケーション能力を養うためにはどのような支援が必要か、講話していただく。
- 2 日 時 令和元年11月27日(水) 16:00~17:00
- 3 場 所 会議室
- 4 講 師 横手市不登校適応指導「南かがやき教室」教育相談員  
佐藤さゆ里 氏 (学校心理士 上級教育カウンセラー)
- 5 次 第
  1. 開会の言葉
  2. 教頭挨拶・講師紹介
  3. 佐藤さゆ里先生による講話
  4. 質疑応答
  5. 閉会の言葉
- 6 研修の記録と感想 (参加者：28名)

## ＜研修内容＞

グループエンカウンターの中でも心理学的な面も含めながら話していく。カウンセラーの目から見ると「おいしい」と思う点がある。子ども・保護者にしっかり届くような関わりをできるように。

## 今日のねらい・ねがい

- ① 具体的な学びと出会えますように
- ② 大切な「あの子どもたち」が頭に浮かびますように
- ③ 「教師」という仕事はやっぱりなかなかいいもんだな

## □内 容

○**アイスブレイキング**：既に人間関係ができているが自己開示を加えて取り組んでみる。

見えないところにいる人にも気付いている。近寄り方がうまい。→日頃から使っているスキル

○**仁賀保高校のカラーは？**

自己肯定感の低い生徒は、人との関わり方に自信が無い、自分から積極的にいけない。

「自分から来い」で大丈夫な子もいるが、気付いてもらいたいが自分から行けない子もいる。生徒との関わりに応用できるスキル。

○**子どもたちを肯定的に捉える。力を見つける。**

頑張っていない子どもはいない。頑張っているけど、やり方が良くなかったり、苦しさが勝って頑張れなくなったりする。

うまくいかなかった原因（考えると元気がなくなっていくもの）ではなく、うまくいったコツを見つけていく。×「なんでうまくいかないんだ？」本人が気付いていないけれども、素敵なところを探し、伝え、育てていく。

○**傷ついちゃダメ、悩んじゃダメではない。**

一生懸命な人は考え・悩むもの。レジリエンス（＝逆境から素早く立ち直り、成長する能力）が多いと回復が早い。同じことを言われても、引きずってしまう人と翌日には処理できている人がいる。傷つくような言葉を言わせないことよりも、回復力・復元力。

○**県南は自分の気持ちを抑圧してしまう人が多いが、仁賀保高校はどうか？**

悩まない子に育てるのではなく、丸ごと見てくれる人（家族・教師）がいたかどうか。重要な他者の存在がないと獲得できない。人間関係を怖がっている生徒、こういう存在が必要ない訳ではない。

5年後、10年後のあなたにとってどうか？どこに碇を下ろしたいか？

「自分ならばきっと大丈夫」こういうことを言える子は発言と表情が伴っている。

○**期待感・信頼感を届ける。**

保育園のときは届く言葉が頻繁に使われていたが、年齢が上がると届かない言葉が家でも学校でも多用される。「こんなこと言わなくても分かるだろう」叱咤激励の言語。

## ＜参加者の感想より＞

- ◎さゆ里先生の優しい語り口調に、心が癒やされました。もう少しじっくり時間をかけてお聞きしたいと思いました。
- ◎悩んじゃだめでなく、一生懸命な人ほど悩むものなんだと改めて気づきました。言葉かけの大切さ、肯定する心の広さ、まずは真似してやってみようと思います。
- ◎「頑張っていない子どもはいない」まさにそのとおりだと思った。
- ◎子ども達の発言や行動を肯定的に捉えるためには、心理学的カウンセリングマインドについての知識を持つことが大切であると思った。
- ◎教師を長年していると、何気なく言って傷ついてしまう時がある。「言葉には力がある」生徒達の心の状態を感じとり、自信のつく言葉をかけたいと思いました。
- ◎苦難を乗り越えた経験が成長を促しますが、同じ負荷から受けるダメージと回復力の個人差は大きく、だからこそ、「傷つかせない」ことよりも、本人が「立ち直す」ことへの支援の方が、より有用であることが実感できました。
- ◎さゆ里先生の研修は、県の講座を含め何回も参加していますが、とてもわかりやすく楽しく参加させていただいています。
- ◎もう高校生だからと大人と同じような言い回しで話してしまいがちですが、相手に届く言葉かけがどの年齢でも大切なんだと気付かされました。

～\*～



～\*～